

平成21年9月期決算の概要①【損益の状況】

1. 足利ホールディングス連結

- ・連結粗利益は、足利銀行の業務粗利益を中心として、471億円(計画対比54.0%)となりました。
- ・営業経費が293億円、貸倒償却引当費用が84億円(同比67.7%)となったほか、株式等関係損益42億円を計上し、経常利益136億円(同比80.4%)、中間純利益139億円(同比84.2%)となりました。

(単位：億円)

	20/9期実績	21/9期実績	20/9期比	22/3期計画	計画対比(進捗率)
連結粗利益	211	471	259	872	54.0%
営業経費(▲)	137	293	156	—	—
貸倒償却引当費用(▲)	41	84	42	124	67.7%
株式等関係損益	▲ 0	42	42	—	—
経常利益	8	136	127	169	80.4%
中間(当期)純利益	10	139	129	165	84.2%

※20/9期実績については、足利銀行連結の20年度第1四半期の損益が反映されておりません。

2. 足利銀行単体

《業務粗利益》資金利益・役務取引等利益ともに年度計画対比50%以上の進捗となったほか、国債等債券損益30億円を計上したことから、業務粗利益は460億円(計画対比53.4%)となりました。

《経費・業務純益》経費が251億円(同比49.2%)となり、実質業務純益は209億円(同比59.7%)、コア業務純益は178億円(同比50.8%)となりました。

《不良債権処理関係》要管理先やDCFによる引当先の増加等により、一般貸倒引当金繰入額が39億円となり、不良債権処理額24億円等とあわせ、実質信用コストは60億円(同比59.4%)となりました。

《経常利益・中間純利益》保有株式の一部売却により、株式等損益36億円を計上したことから、経常利益は177億円(同比71.3%)、中間純利益は179億円(同比72.1%)となりました。

(単位：億円)

	20/9期実績	21/9期実績	20/9期比	22/3期計画	計画対比(進捗率)
業務粗利益	424	460	36	860	53.4%
資金利益	354	372	18	744	50.0%
役務取引等利益	61	54	▲ 6	107	50.4%
その他業務利益	9	33	24	8	412.5%
国債等債券損益	5	30	24	—	—
経費(▲)	248	251	2	510	49.2%
うち人件費(▲)	109	119	9	239	49.7%
うち物件費(▲)	104	113	9	242	46.6%
実質業務純益	175	209	33	350	59.7%
コア業務純益	169	178	8	350	50.8%
一般貸倒引当金繰入額(▲)	(+)▲26	39	65	1	3900%
業務純益	201	169	▲ 32	348	48.5%
臨時損益	▲ 107	7	114	▲ 100	—
うち不良債権処理額(▲)	85	24	▲ 61	100	24.0%
うち株式等損益	▲ 0	36	36	—	—
経常利益	94	177	82	248	71.3%
特別損益	2,565	1	▲ 2,564	—	—
中間(当期)純利益	2,659	179	▲ 2,480	248	72.1%
(注)実質信用コスト＝一般貸倒引当金繰入額＋不良債権処理額＋売却債権精算損－償却債権取立益					
実質信用コスト(注)(▲)	58	60	2	101	59.4%

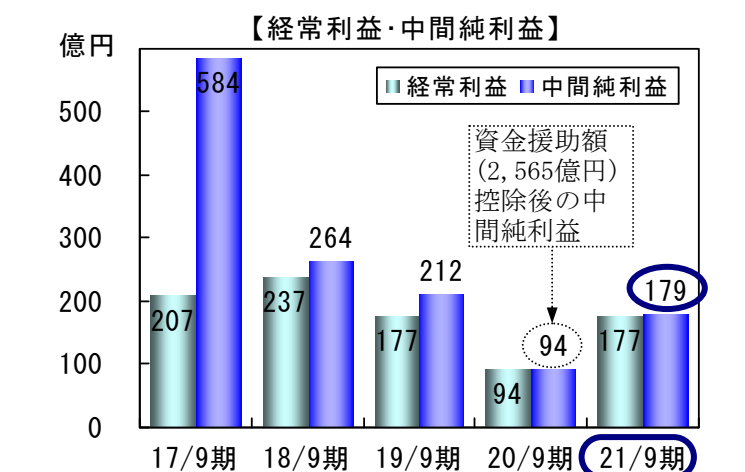
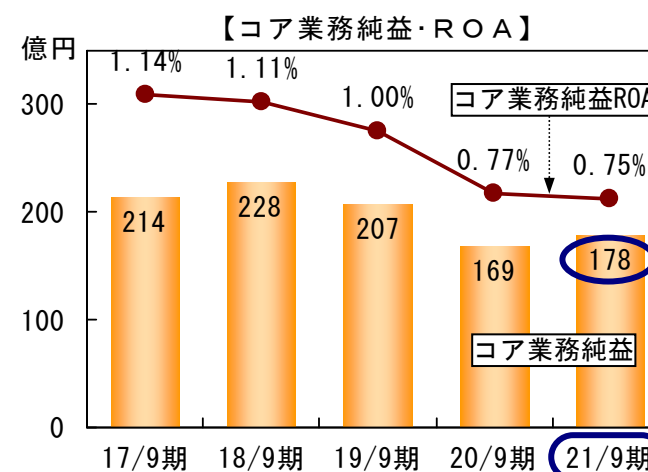
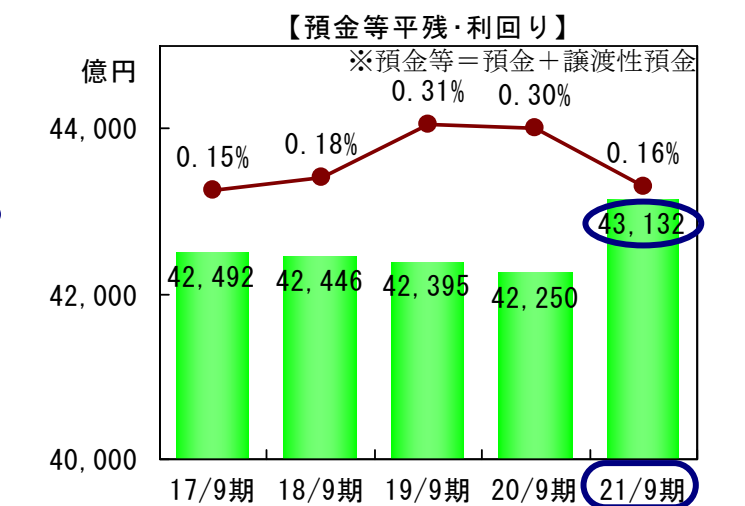
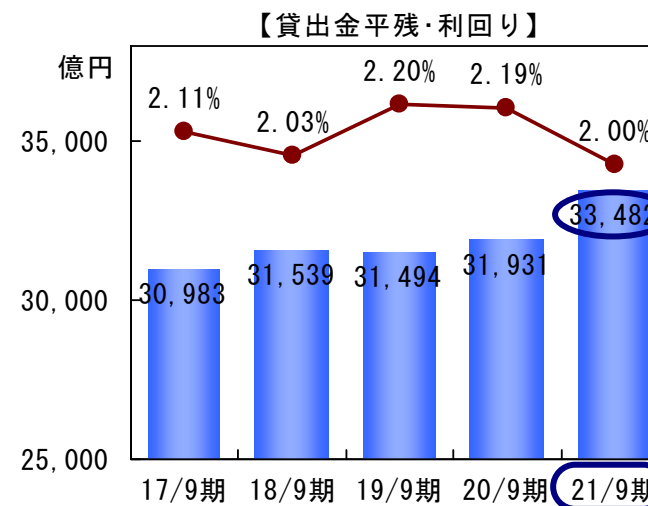
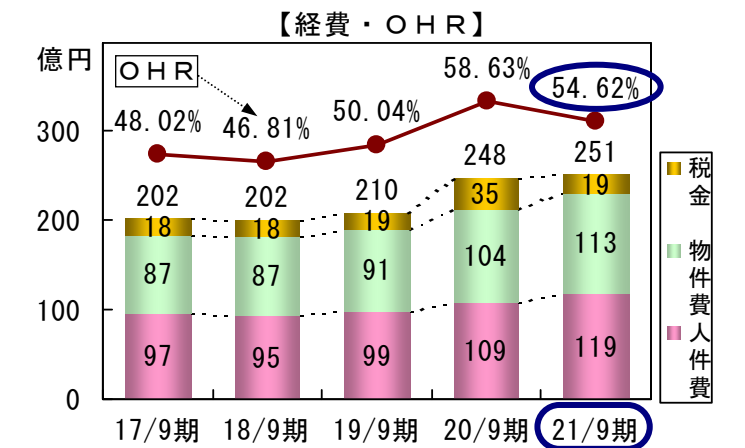
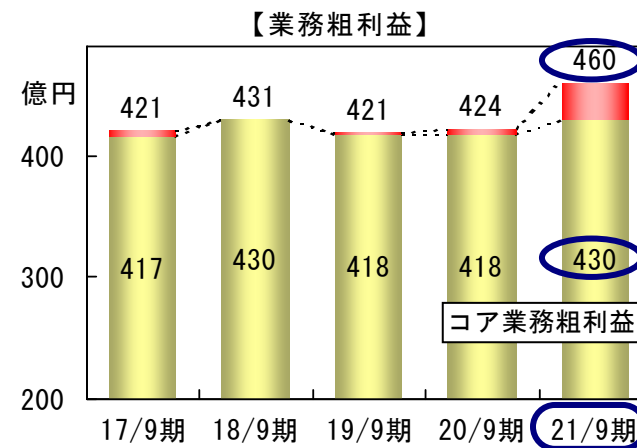
3. HD連結と銀行単体の差額の内訳

(単位：億円)

	21/9期	主な内容
中間純利益の差額	▲ 39	⇒HD連結139億円－銀行単体179億円
HD劣後ローン支払利息	▲ 17	⇒HD劣後ローン残高800億円
HDのれん償却	▲ 31	⇒21/9期のれん1,162億円
その他HD連結調整等	12	⇒有価証券関係損益の調整(※)等
銀行子会社分の損益	▲ 3	⇒銀行連結と銀行単体の中間純利益の差額

※足利銀行の保有する有価証券の取得原価が、HD連結と銀行単体で異なるため生じるものです。

4. 主な計数の推移(銀行単体)



平成21年9月期決算の概要②【主要勘定（銀行単体）】

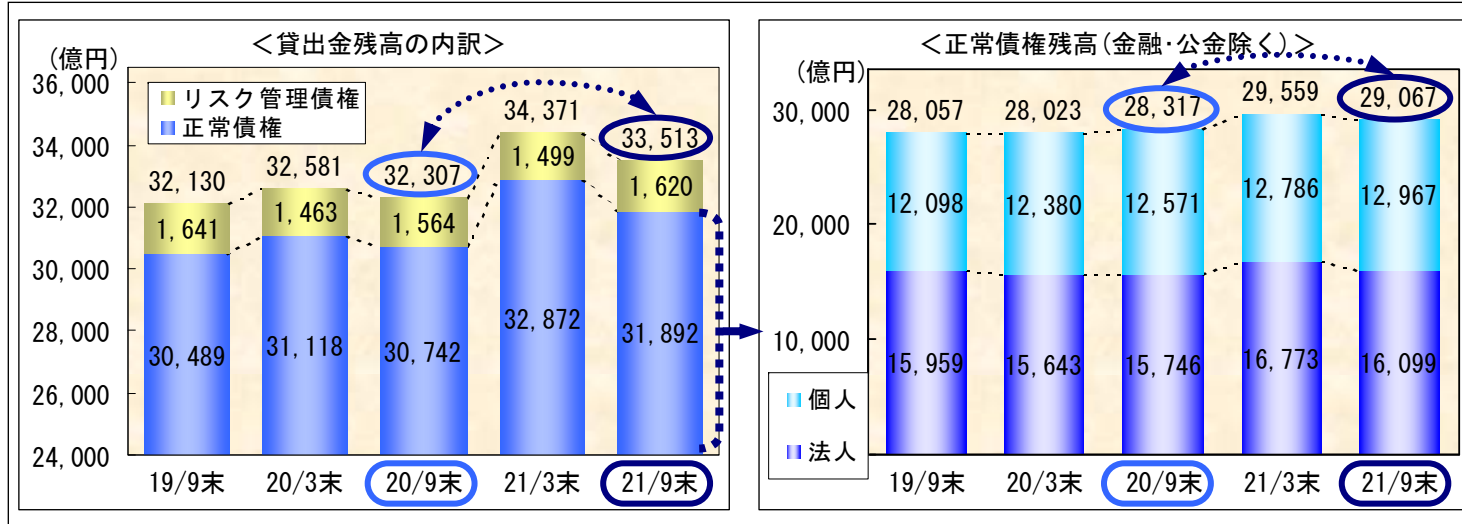
1. 貸出金

- ・貸出金残高は、前中間期末比+1,206億円(年増率3.7%)の33,513億円となりました。うち、住宅ローンは、前中間期末比+536億円の11,618億円となりました。
- ・法人融資先数(正常先～要管理先)は、前中間期末と同じ19,586先となりました。

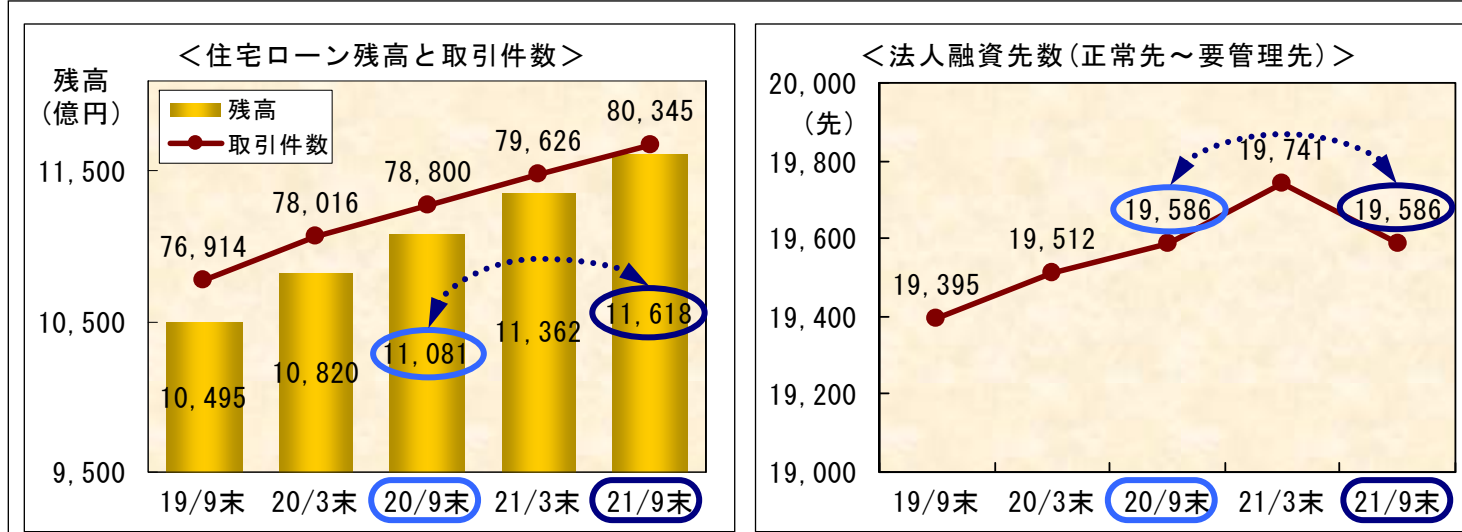
(単位：億円)

	20/9末	21/9末	20/9末比		21/3末
				(年増率)	
貸出金(末残)	32,307	33,513	1,206	(+3.7%)	34,371
個人貸出	12,863	13,270	407	(+3.1%)	13,071
うち正常債権	12,571	12,967	395	(+3.1%)	12,786
法人貸出	17,019	17,417	398	(+2.3%)	17,987
うち正常債権	15,746	16,099	353	(+2.2%)	16,773
公金+金融	2,424	2,824	400	(+16.5%)	3,312
(個人ローン)					
個人ローン	11,572	12,064	492	(+4.2%)	11,830
うち住宅ローン	11,081	11,618	536	(+4.8%)	11,362

【貸出金残高の推移】



【住宅ローン・法人融資先数の推移】



2. 預金・個人預り資産

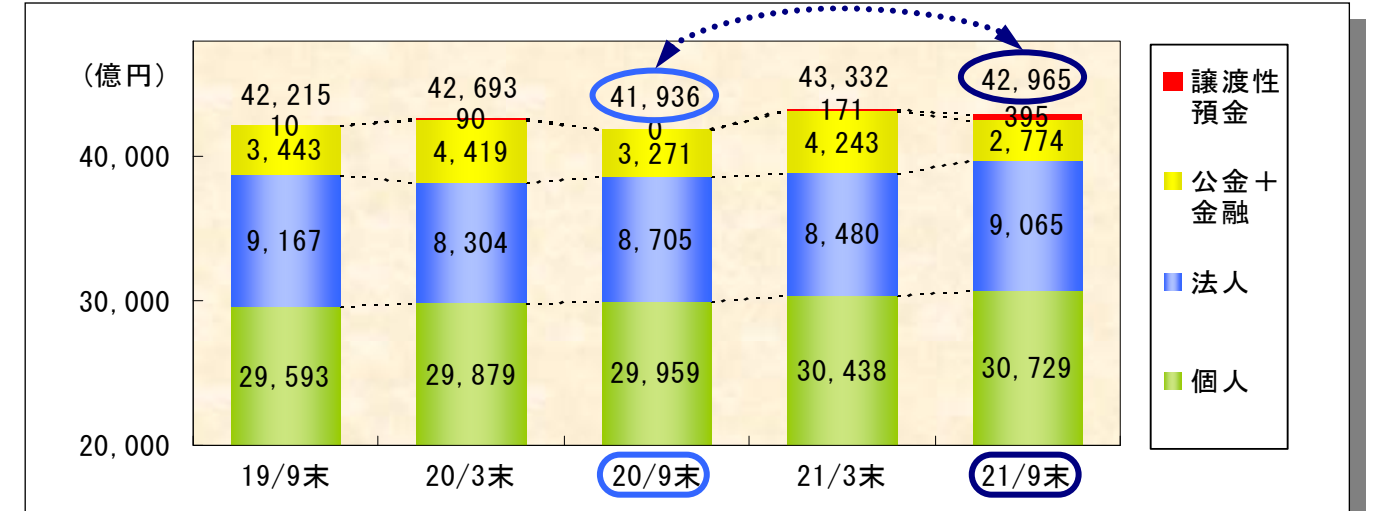
- ・預金等残高(預金+譲渡性預金)は、個人預金と法人預金の増加を主因として、前中間期末比+1,028億円(年増率2.4%)の42,965億円となりました。
- ・個人預り資産は、投資信託が減少となる一方、債券と保険が増加し、前中間期末比+223億円となりました。個人預金とあわせた個人金融資産残高は同比+993億円となりました。

(単位：億円)

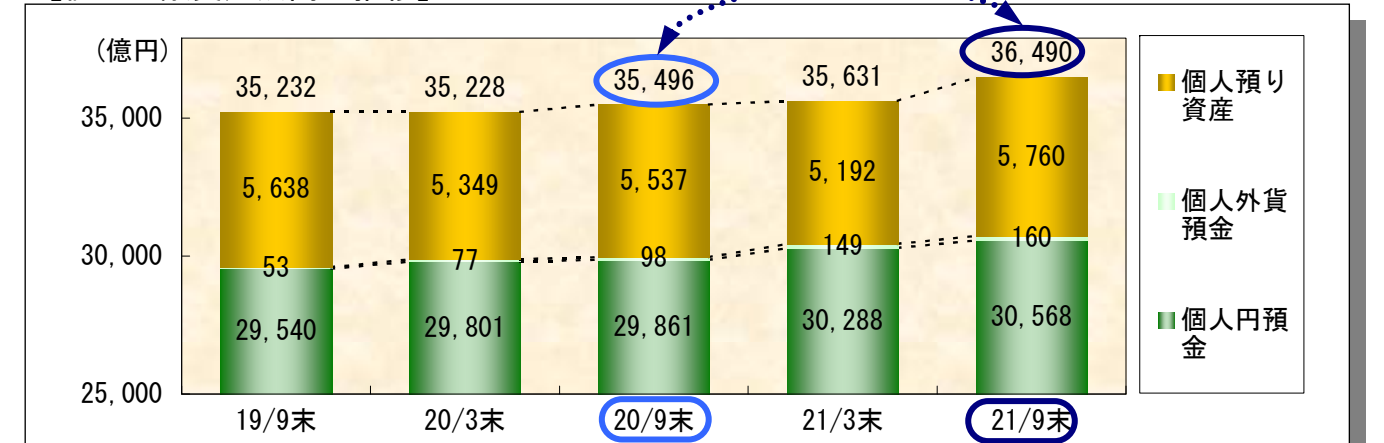
	20/9末	21/9末	20/9末比		21/3末
				(年増率)	
預金等残高(末残)	41,936	42,965	1,028	(+2.4%)	43,332
預金(末残)	41,936	42,569	633	(+1.5%)	43,161
個人預金	29,959	30,729	770	(+2.5%)	30,438
法人預金	8,705	9,065	360	(+4.1%)	8,480
公金+金融	3,271	2,774	▲496	(-15.1%)	4,243
譲渡性預金(末残)	—	395	395	—	171
(個人預り資産)					
個人預り資産	5,537	5,760	223	(+4.0%)	5,192
投資信託	2,696	2,339	▲357	(-13.2%)	2,060
債券(約定ベース)	1,957	2,189	232	(+11.8%)	2,119
保険※	883	1,232	348	(+39.5%)	1,012

※保険=個人年金保険+一時払終身保険

【預金等残高の推移】



【個人金融資産残高の推移】



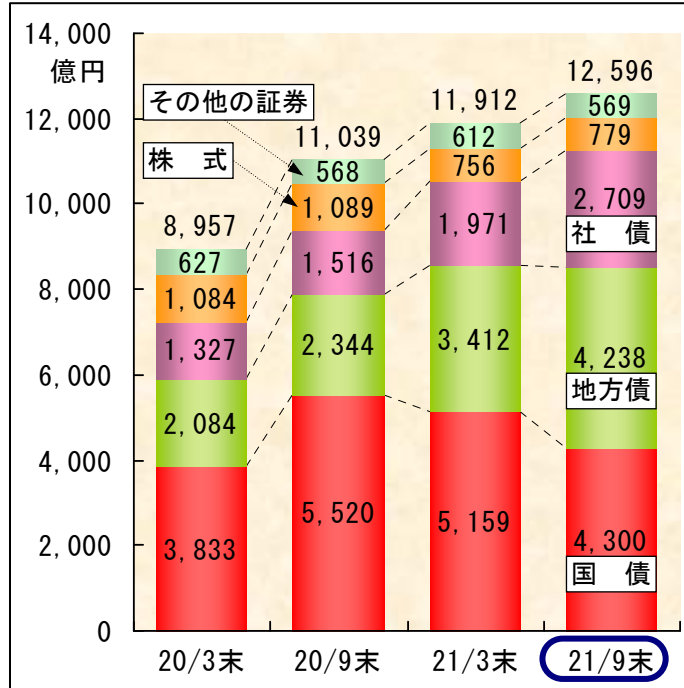
平成21年9月期決算の概要③【有価証券・不良債権・自己資本比率】

1. 有価証券の状況

(1) 有価証券残高・有価証券関係損益（銀行単体）

- ・有価証券残高は、国内債券を中心として、21/3末比+684億円の12,596億円の増加いたしました。
- ・国債は、金利動向を踏まえた売却等により減少(同比▲859億円)する一方、地方債(同比+826億円)・社債(同比+737億円)が増加しました。なお、国債等債券損益は30億円を計上いたしました。
- ・株式は、株価変動リスク抑制の観点から一部を売却しましたが、株価の回復から増加(同比+22億円)いたしました。なお、株式等損益は36億円を計上いたしました。

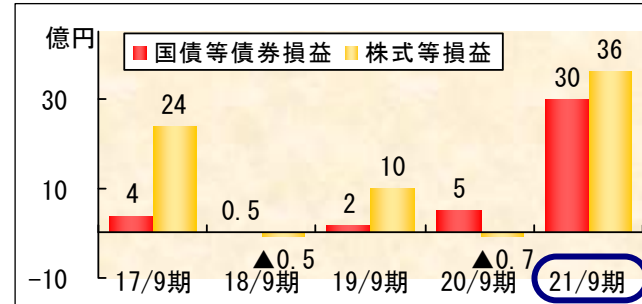
【有価証券残高の推移】



【有価証券の内訳】 (単位: 億円)

項目	21/9末	21/3末比	21/3末
	有価証券残高	12,596	684
国債	4,300	▲859	5,159
地方債	4,238	826	3,412
社債	2,709	737	1,971
株式	779	22	756
その他	569	▲43	612

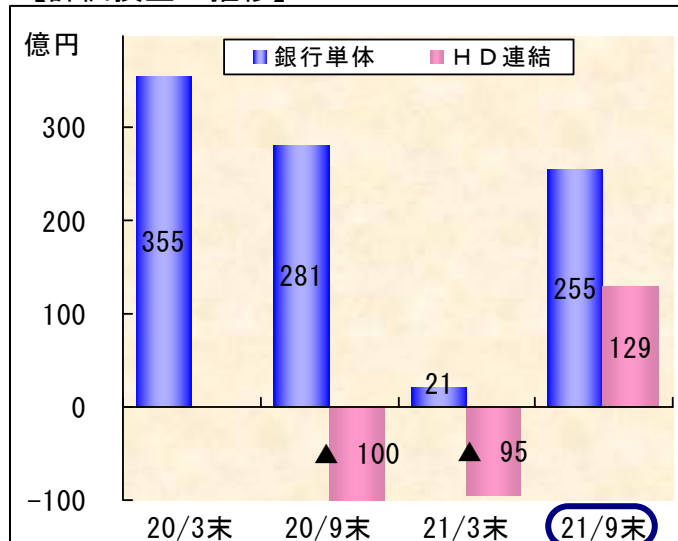
【有価証券関係損益】



(2) 「その他有価証券」の評価損益

- ・評価損益は、株価の回復等から、銀行単体が255億円のプラス(21/3比+233億円)、HD連結が129億円のプラス(同比+224億円)にそれぞれ改善いたしました。
- ・なお、HD連結と銀行単体で評価損益に差が生じておりますが、足利銀行の保有する有価証券について、HD連結と銀行単体における取得原価が異なるため生じるものであります。

【評価損益の推移】



【銀行単体ベース】 (単位: 億円)

項目	21/9末	21/3末比	21/3末
	評価損益	255	233
債券	178	83	94
株式	119	113	5
その他	▲42	36	▲78

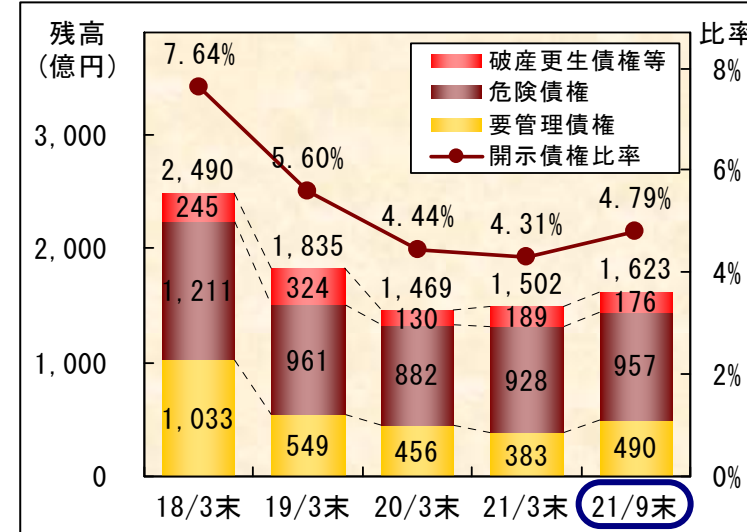
【HD連結ベース】 (単位: 億円)

項目	21/9末	21/3末比	21/3末
	評価損益	129	224
債券	188	80	107
株式	▲36	107	▲143
その他	▲23	35	▲59

2. 不良債権の状況（銀行単体）

- ・景気低迷が続き、取引先の業況悪化による債務者区分のランクダウンが増加したこと等から、不良債権(金融再生法開示債権)は、21/3末比+121億円の1,623億円(同比率4.79%)となりました。
- ・破綻懸念先の引当率低下を主因に、個別貸倒引当金は275億円(21/3末比▲45億円)に減少しましたが、要管理債権の増加等から、一般貸倒引当金は409億円(同比+39億円)に増加しました。

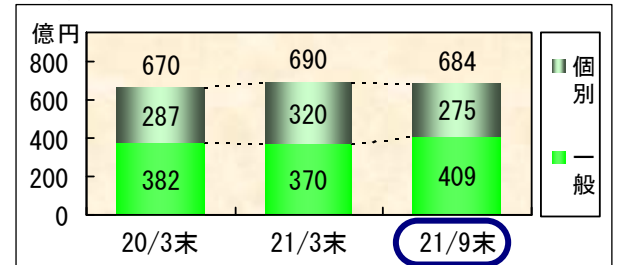
【金融再生法開示債権の推移】



【引当率の推移】

項目	20/3期	21/3期	21/9期
正常先	0.27%	0.24%	0.19%
要注意先	3.09%	2.45%	2.27%
要管理先	17.60%	18.52%	18.43%
破綻懸念先	67.60%	65.96%	54.21%

【貸倒引当金】



3. 自己資本比率

- ・自己資本比率は、リスクアセットの減少と中間純利益の計上から、HD連結6.98%(21/3末比+1.23%)、銀行単体6.97%(同比+0.92%)と、それぞれ上昇いたしました。

【21/9末の自己資本比率】

項目	HD連結	銀行単体
基本的項目 (Tier1) (A)	① 982	1,574
補完的項目 (Tier2) (B)	② 744	154
控除項目 (C)	7	0
自己資本額 (A) + (B) - (C)	1,719	1,729
リスク・アセット	24,630	24,799
自己資本比率	6.98%	6.97%

- ① HD連結のTier1からは、のれん相当額(1,162億円)が控除されております。
- ② 劣後ローン800億円のうち、208億円がTier2に不算入となっております。
- ※HD連結・銀行単体とも、その他有価証券評価差損がないことから、「銀行等の自己資本比率規制の一部を弾力化する特例」にかかる影響はありません。

【自己資本比率の推移】

